

## 第2回南極観測50周年記念事業委員会議事録

開催日時:平成 17 年 10 月 24 日(月)16:00~17:30

開催場所:国立極地研究所6階講堂

参加者:約 50 名

議事:

### 1. 委員長挨拶

国分征氏(企画委員会幹事長)が本委員会の司会を進行した。

村山雅美委員長が本委員会に欠席のため、平山善吉氏が会長代理として、50周年記念と同時に、これからの50年をどうするかということも念頭に、会を盛り上げていただきたいと挨拶された。

### 2. 国立極地研究所所長挨拶

藤井理行新所長が南極展、出版事業、記念式典の3つの事業を中心に、極地研は積極的に取り組んでいる、極地研は極地観測担当の福地光男副所長が南極観測50周年事業の委員長として取りまとめることになっている。南極展ではインターネットによる特別なTV中継会議などを用意している。極地研、OB 会は連携して進めていただきたいと、挨拶された。

### 3. 文部科学省(南極本部)挨拶

松尾課長補佐から、現在、「しらせ」の後継船の建造について進めている。50周年事業については文科省、極地研、OB 会が連携して進めたいと挨拶された。

### 3. 企画委員会報告

#### 3-1. 全体報告

渡辺興亜氏より、村山先生の発議で3年前から観測隊 OB の長老、中堅を中心に懇談会を持ち、50周年記念事業の検討を始めた。50周年のお祝いの日をいつにするかということが最大の課題であった。

その後、この懇談会は記念事業準備委員会に発展し、今年の5月27日の第1回南極観測50周年記念事業委員会発会総会が開かれ、その会で記念日を11月8日にすることを決定した。その後、具体的には以下のように事業計画について検討してきた旨の説明があった。

・7月14日、記念祝賀会会場関係者と打ち合わせ、赤坂プリンスホテルを最終決定した。祝賀会は500人参加規模とすることになった。

- ・8月3日、幹事会を開催し、祝賀会、地方講演会、出版事業、事務局開設、ホームページ、OB 回会員名簿整備・管理体制などを検討。とくに、50周年事業の予算については、OB および関連企業からの賛助金を集めることとし、その規模は3,000万円と見積もられる。
- ・9月2日、幹事会を開催し、出版計画を検討
- ・9月13日、総務部会を開催し、式典総合スケジュールの調整、記念品の打合
- ・10月5日、事務所開き
- ・10月21日、第2回記念事業委員会開催の打合、募金趣意書案検討、また、アーカイブスを収集する方式について検討した。

### 3 - 2 . 部会報告

#### 1) 総務部会報告

福谷総務部会担当より、赤坂プリンスホテルの祝賀会と晚餐会(17:00)は同時に開催する計画であること、記念事業委員会事務局を千代田区三崎町に設けた旨の報告があった。

#### 2) 「宗谷」報告

三田「宗谷」担当より、船の科学館と協議している。観測隊 OB は年々増えると思われるが、「宗谷」の乗組員は年々減っている。今のところ、57名(当時、235名)の参加を予定している。宗谷では10:00受付、飛行甲板にはイスを用意して、11:00には「出港用意」をかけて重厚な汽笛を出すように打ち合わせている。一般の見学者も取り込んで、一般見学者からテープを投げてもらおうなどを考えており、報道関係者にも通報したい旨の説明があった。

#### 3) 講演会部会

渡辺講演会部会担当より、記念日当日、講演会を観測船「宗谷」でやることも考えている。地方講演会は南極 OB 会支部を作ったのぞみたい。地方講演会の開催には記念事業としての補助が必要であろう。これまで地方講演会の開催予定が北海道、秋田、新潟、京都、九州支部から寄せられている。

#### 4) 出版部会

柴田出版部会担当より、出版は3冊考えている。ひとつは「南極外史」として南極臭さを出したものにしたい。他の一つは各隊で2名ずつの100人規模の著者による、「南極観測100人の証言(仮)」を検討中である。これら二つの出版物は300頁規模。他に、毎日新聞から、芸術性の高い写真集の出版を考えている。

#### 5) 記念品部会

佐野記念品部会担当より、記念切手、毎年、観測隊が作っている記念品のようなものを考えている旨の説明があった。

#### 4. 募金趣意書について

募金については、日本極地研究振興会に受け皿をお願いし、免税措置が適用できることを検討中である。記念事業計画の予算案は出版費、講演会補助(東京、地方)、記念祝賀会、事務局経費などである。吉田栄夫氏(極地研究振興会)より振興会を受け皿とした募金は可能であろう。ただし、免税手続きを取った場合、使えない費目もあるので、よく検討していただきたいと述べられた。

趣意書の語句についていくつか訂正の必要があることが指摘された。

#### 5. その他

50周年を機会にアーカイブス事業について検討する必要がある、古い資料を収集する具体案について渡辺氏から提案があった。西掘(湖東町)記念館に一次隊の記念品を入れるという提案があったという話を聞いたが、南極関係の資料が分散することが良いかどうかは十分検討すべきで、極地研究所、南極OB会などでその対応を考える必要がある。いずれにせよ、ア・カイブ資料の受け皿は早急に作る必要がある。これに関連して、来年、上野で開催する南極展では、アーカイブスの展示を考えているが、あまり具体的物品があがっていない。OB会に働きかけて、とくに1~6次隊の宗谷時代の物品を収集することを考えている。南極展での展示を機会に、極地研に寄贈していただければ、極地研が立川に移転した後の交流棟(南極展示館)にも展示ができ、管理、維持していくことができるので、協力いただきたい旨が、極地研神田より依頼があった。